



NNNews 1月号

鹿行農林事務所 行方地域農業改良普及センター

Tel:0299-72-0256 Fax:0299-72-1690 担当 中尾

農業学園実施状況

開講式および第1回講座「先進事例研修」

7月21日（火）に令和2年度行方地域農業学園開講式および第1回講座「先進事例研修」を開催し、農業学園生16名が参加しました。

開講式では、普及センター長から「新型コロナウイルス感染症の影響で例年より1ヶ月程度遅れたが、無事開講することができた。農業学園で学んだことをそれぞれの経営発展に役立て、経営感覚の優れた農業者となってほしい」と挨拶がありました。

第1回講座は、会場を移し、日頃より行方地域の担い手育成活動に協力いただいている青年農業士の岡田祐樹氏の圃場で実施し、岡田青年士の経営方針や栽培の特徴を説明していただきました。講座は対話形式で行われ、学園生から積極的に質問をする場面も見られ、活発な意見交換ができました。講座の最後には、岡田青年士から学園生に対して「地域の担い手として一緒に行方地域の農業を盛り上げて行って欲しい」という激励の言葉をいただきました。



第2回講座「栽培技術向上研修」



9月29日（火）に令和2年度農業学園第2回講座を開催し、行方地域の農業学園生12名が参加しました。

第2回講座は「栽培技術向上研修」と題し、茨城県の研究機関である「生物工学研究所」および「園芸研究所」の視察を行いました。

生物工学研究所と園芸研究所では、「いばらキッス」や「いばらキング」等の県育成品種の育種に関する研究や野菜、果樹、花卉の栽培技術や病害虫に関する研究を行っています。

当日の講義では、生物工学研究所から「レンコンの品種識別技術について」、園芸研究所から「レンコンネモグリセンチュウと農業について」それぞれ説明していただきました。

また、講義後には、人工気象室やトマトの栽培試験で使用している高軒高ハウス、レンコンの優良系統の原種圃場などの見学を行いました。トマトの高軒高ハウスには、最新の環境制御装置が導入されており、見学した学園生からは、導入コストや収量などの質問が飛び交い、関心の高さがうかがえました。



特別講座「行方レンコン講座」

10月29日（木）、稲敷市桜川公民館および株式会社れんこん三兄弟において令和2年度行方地域農業学園 特別講座「行方地域レンコン講座」を開催し、農業学園生10名が参加しました。

行方地域では、近年、レンコンでの就農者が多いことから、「レンコン」に品目を絞った講座を開催しています。今回は、先進的なレンコン経営を学ぶことを目的に、稲敷市の農業法人「株式会社レンコン三兄弟」の代表取締役 宮本貴夫氏を講師に、経営方針や法人設立までの経緯、これまでの販路開拓の方法などに関する講義を受講しました。講義後には場所を移し、作業場の様子を見学しました。（株）れんこん三兄弟の作業場は、令和元年度に茨城県の儲かる農業ステップアップ事業を活用して、効率的な作業が行えるように整備しています。工夫された作業場を見て学園生からは、「自分の経営にも取り入れてみたい」という声が多く聞かれました。



第3回講座「土づくり講座」



11月17日（火）、令和2年度行方地域農業学園第3回講座「土づくり講座」を開催しました。今回は、物理的性質からみた土づくりについて学ぶことを目的に、美浦村にある農機具メーカー「スガノ農機株式会社」で講座を実施し、行方地域の農業学園生6名と土浦地域の農業学園生5名が参加しました。

スガノ農機株式会社は、プラウ等の土を耕す農機具を製造・販売する専門メーカーです。講座は、講義と見学の2部構成で行われ、講義では、専門メーカーならではの土づくりへのこだわりをお話いただきました。その後、実施された工場見学では、土づくりを支えるスガノの農機具ができるまでを学びました。また、講座の最後には、国内外のクラシックトラクターが展示されている「土の館」の見学も行いました。学園生の土づくりや農機具に対する関心は高く、熱心に写真を撮っている方や積極的に質問をしている方も見られ、有益な講座となりました。

農業学園生募集中！



- ・新しく農業を始めた方
 - ・少し前に就農したが、聞いてみたい話がある方
 - ・普及センターってどんなところ？とお思いの方
- 農業学園に来てみませんか？興味のある講座だけでも構いません。お気軽にご参加ください！